

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【算数】

1. 対象（実施を想定する学校・子供の実態の概要）

- ・一生懸命取り組もうとするが、能力の差が激しい（授業を受けることが困難な子もいる）。
具体物や数図ブロックを使って、自分の言葉で話しながら考えを伝えようとしている。聞くことに課題があり、友達の考えを聞いていないことや、自分本位なところがある。

2. 単元（題材）名「たしざん」（全9時間）

3. 単元（題材）で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	10のまとまりに着目し、繰り上がりのある計算の仕方を理解し、正しく計算できる。
思考力、判断力、表現力等	繰り上がりのある加法の計算の仕方を具体物や言葉、式、図を用いて表現し、考えている。また、友達の考えと比べたり、真似したりしながら考えている。
学びに向かう力、人間性等	繰り上がりのある計算に進んで取り組み、友達の考えを受け入れながら計算の仕方を考えようとしている。

4. 本時の目標（3／9時間）

繰り上がりのある加法の計算では、10のまとまりを作ればよいことを理解している子供たちが、具体物の磁石や数図ブロックを操作したり、友達と一緒に考えたりすることを通して、自分と友達の考えの同じところや違うところを比べ、問題によって10のまとまりの作り方を変えればよいことに気付くことができる。

5. 授業展開【**本時**・単元(題材)】※本時または単元(題材)いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

本時の問題：たまごはあわせてなんこですか。(3+9)

- ・ 9+3 !
- ・ 1 2 だよ。
- ・ 今回も、10のまとまりをつくれば、できそうだよ。
- ・ この前は、9+4で、9が先だったよ。
- ・ 3にあといくつで10かな。
- ・ 9にあげるほうがかんたんそう。

本時のめあて：10のまとまりにきをつけて、けいさんのしかたをかんがえよう。

考えるための材料

たまごの絵の磁石、数図ブロック、
3+9とたまごがかかれたプリント、自由に考えられるプリント

最終的にはどちらかのプリントに自分の考えをまとめる。

想定される活動

一つのものを使って考えるのではなく、いろいろなものを使って考えようとする。
たまごの磁石や数図ブロックを動かし、10を作ろうとする。
そのまま一つずつ数えようとする。
友達の考えと比べたり、真似したりしようとする。友達にどうやったか聞こうとする。

対話と思考(対話を通じた協働的な問題解決のプロセス)

個々に自分の席に持っていくのではなく、たまごの磁石は黒板、数図ブロックは給食台、プリントは自分の机、というように場を設定する。場の移動は自由とする。
いろいろ操作しながら考えながら、自分の考えをプリントにかくことを促す。

- ・ 3に7こあげるといいよ。
- ・ 9に1こあげればいいんじゃないかな。
- ・ ○○さんとおなじだね。
- ・ ちょっとちがうね。

学習の成果(予想される子供のあらわれ)

本時の問題に対する答え： 3+9=12 こたえ 1 2 こ

本時のめあてに対するまとめ：すうじが すくないほうを わけると わかりやすい。

たされる数をわけるほうが10を作りやすいときもあり、問題によって、分ける数を変えればいいことに気付く。